

NST 稼働とそれに伴う在院日数の変化

仲田智之¹⁾²⁾、亀井 滋¹⁾²⁾、五嶋博道²⁾³⁾、福村早代子²⁾⁴⁾、川口 恵²⁾⁴⁾、大川 光²⁾⁵⁾、大川貴正²⁾⁵⁾、矢賀進二²⁾⁵⁾、東口高志⁶⁾

尾鷲総合病院 NST & Clinical Path Complex(NCC)¹⁾、内科²⁾、外科³⁾、看護部⁴⁾、リハビリテーション部⁵⁾、藤田保健衛生大学医学部 外科学・緩和ケア講座 教授（尾鷲総合病院 NCC Adviser⁶⁾）

当院は 2000 年 7 月より NST 稼働が開始され、その後、各患者の栄養状態の管理や QOL の上昇に積極的に介入してきた。その結果として、NST 稼働にともない様々な影響が病院全体に現れてきている。経済的な面や、地域医療との関わり、スタッフの負担等が挙げられる。今回は在院日数の変化を例にあげて NST 稼働により何が変わったか、なぜ在院日数に変化が現れたのか、等を検討する。